

我が労働階級はこの資本の攻勢に抵抗すべく余計に  
きき思はねばならぬ。これは何によるか。第一に組織の不  
者不足、第二に労働戦線の分立、第三に労働組合組織の不  
完全、によるものである。  
組織労働者の不足は、その決定的要因であるが、その数  
字に見ると、我が労働者の總数は四百三十万人である。その  
組織労働者の数は約二十三万四千人に過ぎず、その組織率  
は僅かに五分四厘である。これと比べると、西の労働者は未  
三割七分と対比せよ。即ち約四百五十万の労働者が未組織  
ま、残されざる。かくの如く人々は我が力の弱きは当然で  
はなにか。このことからして、我々は来組織労働者の組織  
化に全力を傾注すべき大なる必要の意義を見出す。  
労働戦線の分立は、組織率の低いことに依つて弱められ  
てゐる労働階級の力を、更に弱めるものである。即ち組合  
の分立と背向性、可能に力に表現を妨げるものである。これ  
を数字に示すと、我が口全属労働者の總数は約三十万で

つて、組織全属労働者は約八万五千で、その組織率は二割  
九分である。組織率は全産業部門中第一であるが、しかし  
それが五十一の組合に分立してゐて、平均一組合千七百名  
以下である。これを概言すれば、即ち全全属労働者を完全  
に組織した時、全回轉力を一とし、且つ全全属労働者が一  
一組合に組織されたとすれば、その可能の力は、百分  
の二十に過ぎない。しかるに組合が分立してゐるために、そ  
の可能の力が表現し得ないものである。各産業部門に於て  
然り。これは即ち全口全属組合と産業別組合の間に我が  
が力闘をねばならぬことを教へるものである。  
労働組合組織の不完全とは、即ち中央集権的組織が表現  
されてゐないこと、及び組合の産業別編成が不十分である  
ことを指すものである。我が前の立ちあがつてゐる資  
本家階級は昔の如き單一資本家でなく、集中された大資  
本を有し、全口的に産業別に結合したる資本家階級である。  
これに對し地方分権的組織と非産業別組合組織では最早不